

## 韓国の原子力施設の廃止措置計画に関する現状

スンヘン イ

韓国原子力安全技術院

Email: shlee@kins.re.kr

2017年、文在寅（ムンジェイン）大統領の新政権は、韓国が原子力発電所から段階的に撤退することを決定した。現在建設中の3基の原子炉については完成させるが、これが最後の建設であり、既存炉についても、40～60年の運転寿命が終わった後は再生可能エネルギーなどの他の発電に代替することを政府として決定した。原子力エネルギーからの撤退を示した政策により、古里1号機は2017年6月19日に恒久停止された。これは、韓国の原子力発電所で初めて廃止措置の段階に入ったものである。韓国水力原子力発電会社（KHNP）は、廃止措置計画を5年以内に提出する予定である。古里1号機の閉鎖により韓国で最も古い運転中の炉となる月城1号機は、運転免許が切れる2022年よりも前に閉鎖する予定である。

韓国では24基の原子炉が稼働中であり、総発電容量は22,505MWeである。これは、国内に必要な電力の1/3を供給していることを示している。政府は、新たな原子力発電所計画を白紙化し、既存炉の運転期間も延長せず、2038年までに原子炉の数を14基まで減らすことを公表している。

キーワード：原子力撤退政策、恒久停止、廃止措置、韓国